

平成30年度

中国研 研究総括提案文書

岐阜県に生きる全ての生徒に

第2回総会資料

岐阜県中国研

平成31年2月20日

「力が付いて」「楽しくて」「またやりたい」平成30年度の振り返りと

と思う、国語の授業を提供するために

平成31年度の方

本荘中学校 伊藤 雄樹

はじめに

平成29年10月26・27日に行われた、文部科学省の杉本直美教科調査官をはじめ、県内外からお越しくださった参観者の皆様に大絶賛を頂いた全国大会から2ヶ月後の12月27日、岐阜市立境川中学校にて、中国研が主催する「明日（あした）の国語を考える会」が実施されました。そこで、私は忘れられない言葉を聞きました。

私は、講師2年目で、本校から参加したもう一人の教員は、講師3年目で、中学校経験はお互い初めてです。国語科は私たち2人だけです。日々の授業はもとより、定期テストの際には、お互い作った問題がこれで良いのか検討することも難しいため、車で15分かけて、近くの学校のベテランの先生にご指導を頂き、学校に戻って直し、また持って行っての繰り返しで、ようやく生徒に出すことができます。その日常に比べれば、こうやって、国語のことについて、勉強できる時間は本当に幸せです。

（「明日の国語を考える会」にご参加された女性講師の方のお言葉）

私は、この言葉を聞いて、身の引き締まる思いが溢れてきました。

その日は、めったに雪が降ることがない岐阜市にもかかわらず、大雪に見舞われた日でした。

その方にお伺いしたところ、この「明日の国語を考える会」に参加するために、片道1時間半をかけて参加をされていたということを知りました。

自分にとっては、同じ国語科の先生が勤務校に複数在籍しており、困ったことがあったら相談できる。その状況が当たり前だからです。

しかし、その状況が当たり前ではない方が実際にいらっしゃることに対して、生まれた感情は、自分の恵まれた環境を当たり前にはいけないという自戒の念と、そこまでして参加して下さった方に、会の主催者である自分たちは、いったいどれだけのものを提示することができたのだろうか？という自問自答でした。

そして、このお言葉をお聞きしながら、同時に

岐阜県の国語科研究会に在籍して下さっている研究部員の方々という人的財産を駆使し、岐阜県全域の国語科教員が、明日の国語の授業で、「そうか！こんな授業のアイデアがあるのか！やってみよう！」と思えるアイデアを手軽に入手し、実践する。そのことで、岐阜県全域に住む生徒全てが「楽しくて」「力が付いて」「またやりたい」と実感する国語の授業を提供し続けることができるための仕組みづくり

ができないかと考えました。

そこで、この思いをもちながらも、具体的にどうするとよいか分らず、途方にくれていた私ですが、情報部長にご相談したところ、

中国研のホームページをクリックすると

「全学年・全領域の授業の、黒板写真を閲覧できるようなもの」を作成してはどうか？

（『中国研ホームページを活用した情報共有』を行ってはどうか）

というアドバイスをいただき、中国研ホームページを活用し、情報を共有しあい、お互いに学び合うことができるのではないかと教えて頂きました。

このような経緯から、36名の研究部員の先生のお力をお借りし、「いいな、この授業！やってみよう！」と思える授業を提供・共有できる、そんな中国研を目指すことが、全国大会の成果を「広げる・深める」ことになるのではないかと考えました。

このような思いをもって、「中国研ホームページを活用した情報共有」を足がかりとし、岐阜県に住む、全ての生徒に「楽しくて」「力が付いて」「またやりたい」と思える国語の授業づくりを目指して取り組んだ一年を、次のように報告させていただきます。

① 『中国研ホームページを活用した情報共有』について

前述の思いでスタートした『中国研ホームページを活用した情報共有』を、各領域部長の先生のお知恵を借りながら、進めて参りました。その中で「提供するものは、黒板写真にこだわることはないのではないか？ 一番の目的は『そうか！ こんな授業のアイデアがあるのか！ やってみたい』と思う情報を提供・共有できることではないか？」というご意見をいただきました。

この意見を頂いたときに、私の脳裏に真っ先に浮かんだのは、冒頭でも述べた全国大会です。この時、「話す・聞く（陽南中 篠田陽子先生）」 「確かに書く（加納中 梅田佳宏先生）」 「豊かに書く（附属中 野々村琢磨先生）」 「読む【説明】（陽南中 北原章大先生）」 「読む【文学】（附属中 ※現在は興文中 山田優貴先生）」 「言語文化（加納中 河合のぞみ先生）」 の6つの部会に別れ、それぞれ、授業を公開して頂きました。

この6つの授業公開は、授業者の方はもちろん、当時の研究部員の先生の英知を結集して作り上げられた、『知的財産』であると、私は思っています。

しかしながら、全国大会当日には、岐阜市内の先生方には、駐車場係・受付など、陰の部分でこの会を支えて頂き、授業を見て頂くことすらできておりません。こういった背景も含めて、この『知的財産』を世に「広める」ことが、タイトルにもある、全国大会の成果を「広げる」ことであると確信しました。

そこで、全国大会授業者の6名の先生にご連絡を差し上げたところ、「あの指導案は、皆さんに作って頂いて、私が授業をただけのものですから」と心温まる言葉を頂き、中国研ホームページへの資料提供を快諾して頂きました。

こうして、中国研ホームページで、全国大会授業の指導案・学習プリントなどを閲覧でき、「広める」しくみを創りました。これが、本年度、研究部の大きな一歩です。

しかし、それを閲覧できるようにしただけでは、研究を「深める」ことにはなりません。

このホームページを活用した情報共有のもう一つのねらいは、「追実践による、加筆・修正」であると考えています。

ホームページを用いて、過去の実践を見ることができるよう。このことで、全国大会の成果を『広げる』ことができます。

しかし、それだけでは、さらに良いものに「深める」ことにはなりません。

昨年度の全国大会を礎として再実践を行い、その実践をホームページで公開する。その繰り返しの中で、精度を高めることが大切だと考えました。

すでにこれを実践されている部会もあります。昨年度、梅田佳宏先生（岐阜市立加納中学校）が「にぎわいのある岐阜市にするために ～根拠を明確にして意見を書こう～」で、岐阜市柳ヶ瀬の自転車・歩行者通行量を増やすための提案を意見文として書くという実践を提案されました。

この実践を礎とし、現「書くこと」部長 加藤尚子先生（関市立桜ヶ丘中学校）は部長自ら、関市の市教研で、「関市 桜ヶ丘地域の一体感を高めるために」と、自身の地域に合わせた題材に作り変え、実践を行われています。

また、全国大会では、「2つのモデル文を比較する活動から、より説得力のある事例の選び方を学び、実際に書き上げる」ことをねらいましたが、「書き上げる」部分に時間的なゆとりがなかったという反省点が出ました。そこで、「二つのモデル文を比較する活動から、より説得力のある事例の選び方を学び、調べ学習で見つけた情報のうち、より説得力をもたせられる情報を選ぶ」ことを評価規準とする実践を行われました。

これが、まさに、全国大会の成果を「深める」一つの具体であると考えております。

にぎわいのある岐阜市にするために ～根拠を明確にして意見を書こう～
 <単元の目的>
 「なほほど!このアイデアなら柳ヶ瀬ににぎわいが生まれるかも!」と納得してもらえる意見文を書く。
 私たちがこの意見文でめざす「にぎわい」とは? (岐阜市HPより)

桜ヶ丘地域の一体感を高めるために ～根拠を明確にして意見を書こう～
 <単元の目的>
 「なほほど!このアイデアなら地域の一体感が高まるかも!」と納得してもらえる意見文を書く。

桜ヶ丘地域の一体感(幅広い年齢層の住民のつながり)を高めることを目的とし、住民同士の交流、地域の賑わいや楽しみが生まれるイベントや行事を開催しようと考えています。どんなイベントや行事を行うと、地域の一体感が高まると思うか、中学生の意見をぜひ聞きたいです!

上記の実践をもとに追実践した
 30年度 関市市教研
 「関市 桜ヶ丘地域の一体感を高めるために ～根拠を明確にして意見を書こう～」の実践
 現「書くこと」部長 加藤尚子先生 (関市立桜ヶ丘中学校)

さらに、8月20日に岐阜市教育研究所で行われた「夏季ゼミナール」の会では、小島光太郎先生（恵那市立恵那東中学校【話すこと・聞くこと部長】）加藤尚子先生（関市立桜ヶ丘中学校【書くこと部長】）小宅陽久先生（岐阜市立東長良中学校【読むこと部長】）清水裕樹先生（揖斐川町立坂内中学校【言語文化部長】）の4名による全国大会の成果を、「広げる」・「深める」ための研究の方向の提案、そして、その方向性を具体化した実践として、武市諒太郎先生（東白川村立東白川中学校）、山崎雅先生（瑞浪市立瑞浪中学校）、干場公平先生（可児市立蘇南中学校）、西岡隆行先生（高山市立中山中学校）の四名の先生に、実践提案を行って頂きました。

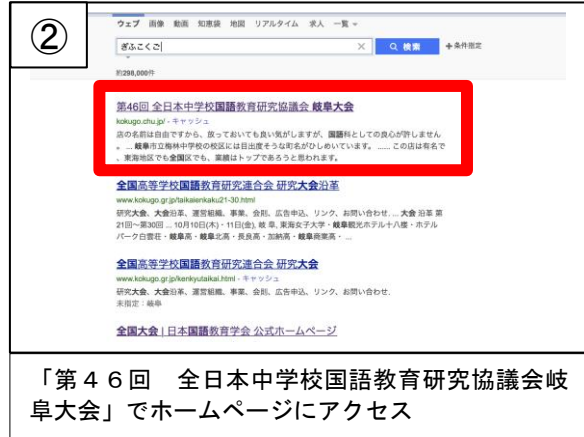
そして、これら全ての実践を、ホームページから閲覧可能にしました。

このインフラの整備こそ、私たち研究部が推進してきました「中国研ホームページを活用した情報共有」です。現在閲覧可能なものだけでなく、随時、ホームページにおける情報提供を推進してまいります。

【手順】



Web上のサーチエンジンで、「ぎふこくご」をキーワードに検索



「第46回 全日本中学校国語教育研究協議会岐阜大会」でホームページにアクセス



ホームページ左上の「授業資料はこちらより」をクリック



「すぐに授業資料がみたい」の横の赤い円をクリック



希望のものをクリック



現在、全国大会授業関係の全てのデータの閲覧が可能です。随時実践をアップロードしていきます。

※キーワードが「ぎふこくご」で出てこない場合は、アドレス欄に「kokugo.chu.jp」と入力して下さい。

② 2021年度 実施の「中国研 飛驒大会」に向けての具体的な動き出し

飛驒大会実行委員長 三輪太雄校長先生（高山市立宮中学校）・飛驒大会実行委員 野島将也先生（高山市立日枝中学校）を中心とし、すでに飛驒大会への動き出しを進めてくださっています。平成30年8月8日には、高山市立日枝中学校を会場に、飛驒地区中学校国語科研究協議会 夏季統一研究会を開催し、飛驒大会の組織づくりを行って頂きました。そして、この会の中で、

【研究部長】	金子紀之先生（下呂市立萩原南中学校）
【運営部長】	道上修身先生（高山市立東山中学校）
【話す・聞くこと部長】	熊崎智文先生（下呂市立金山中学校）
【書くこと部長】	荒井貴行先生（高山市立久々野中学校）
【読むこと部長】	垣内宏大先生（高山市立日枝中学校）
【言語文化部長】	西岡隆行先生（高山市立中山中学校）

以上の先生方に、飛驒地区の実践を推し進めていただくこととなりました。また、現段階で、

日時：2021年度10月29日（金） または、10月22日（金）の線で動いています。
場所：飛驒文化センター（全体会）
日枝中学校・松倉中学校・中山中学校・東山中学校（会場校）

ということがはっきりとしてきました。

今後、飛驒大会に向けての動きが出てきましたら、またお伝えしたいと考えております。

また、来年度のこの会に私共中国研研究部をお招きいただきました。是非一緒に学ばせて頂きたいと考えております。下の表は、現段階での飛驒大会実施までの見通しです。

2021年度実施の「飛驒地区大会」までの向こう3年間の研究に関わる見通し

年度 元号改正につき、 西暦になっています	2019年度	2020年度	2021年度 飛驒大会実施
行うこと	① 飛驒大会の実施要綱の作成と検討 （準備委員長および、準備委員・研究副総括 日枝中学校 野島将也先生） ② 飛驒地区中学校国語科研究協議会 夏季統一研究会へ中国研研究部部長が出席（研究の共通理解を図る） ③ 飛驒大会における授業者の決定と指導案の作成開始 ④ 飛驒大会における実践提案者の決定と実践提案の作成開始（当日実践提案があるとしたら） ⑤ 「中国研ホームページを活用した情報共有（黒板写真等のホームページアップ）」 2/3年度 ⑥ 年間研究報告（機関誌「ぎふこくご」）	① 飛驒大会の指導案検討 ② 飛驒大会における各部会のプレ授業 ③ 飛驒大会の実践提案の検討 ④ 第2回研究総会での研究部会で、実践提案および、指導案の検討（当日実践提案があるとしたら） ⑤ 「中国研ホームページを活用した情報共有（黒板写真等のホームページアップ）」 3/3年度 ⑥ 年間研究報告（機関誌「ぎふこくご」）	① 飛驒大会の授業最終準備 ② 飛驒大会の実践提案最終準備（当日実践提案があるとしたら） ③ 飛驒大会の運営 ④ 「中国研ホームページを活用した情報共有（黒板写真等のホームページアップ）」の更新 ⑤ 年間研究報告（機関誌「ぎふこくご」にて飛驒大会の実施報告） ※飛驒大会実施の年が、教科書が変更となる1年目となります。

③ 来年度の研究部員継続のお願い

以上のように活動を展開することができたのは、研究部員の先生方のお力添えがあつてのことです。可能であれば、是非来年度も継続して研究部員としてお力をお借りできればと思っております。無理にはお願いできないことも承知しておりますが、是非研究部へのご協力を賜りたいと考えております。

つきましては、別紙「来年度の中国研研究部 希望調査について」に希望をご記入頂き、3月11日（月）までに、現所属部長にお渡しください。

また、新規で研究部員を希望される方がいらっしゃいましたら、大変お手数ではございますが、下記までご連絡いただけますよう、よろしく願いいたします。

担当者 伊藤 雄樹（いとう ゆうき）
メールアドレス yukiiito333@hotmail.com

2019年度 中国研活動計画

日時	活動内容	留意点
5月中旬 (14・15・16日のいずれかの線で調整しています。決定し次第お伝えいたします。)	第1回 研究部総会 ① 研究部長および、研究部員の紹介 ② 全体研究構想および、2021年度開催の飛騨大会までの中国研活動の見通し(研究総括伊藤より) ③ 各研究部研究構想の確認(各研究部部長より) ④ 岐阜県中国研における「中国研ホームページを活用した情報共有」(「明日に生きる言語活動一覧表」を元にした授業実践及び加筆修正・黒板写真のホームページアップ)における2年次の役割分担	開催は、岐阜市教育研究所を予定しております。
各部会で部長が集約(随時)	指導案・黒板写真等の授業資料を情報部 岸 浩道先生にメールで送付	メールアドレス beans@tcp-ip.or.jp
8月初旬 (日時が決定したら主務者より詳細をお伝えします)	第1回「明日の国語を考える会」の運営	2019年度は、飛騨大会に向けての取り組みの一環として、 飛騨地区で実施 します。
できれば、上記「明日の国語を考える会」の午後に行えればと考えております。	飛騨地区中学校国語科研究協議会 夏季統一研究会に中国研研究部部長が出席(研究の共通理解を図る)	午前中に「明日の国語を考える会」、午後に「飛騨地区中学校国語科研究協議会 夏季統一研究会」というように、同一日・同一会場で実施できればと考えております。
8月中旬～下旬 (19日・20日のいずれかの線で調整しています。決定し次第お伝えいたします。)	中国研夏季ゼミナールの実施・運営 現段階で、活動内容は未定です。 今のところ、 『「NHKアナウンサー」の方の講話』または、 『西門・今井指導主事による「目からウロコの国語科実践」』のいずれかを実施する予定です。	活動内容が決定し次第、アナウンスさせていただきます。 開催場所は、「岐阜市中央図書館(メディアコスモス)」です。
12月	1年間の研究の歩みを「ぎふこくご」にまとめる執筆 (主務者・研究総括・研究部長・各部会1名の方に実践報告)	
12月下旬	第2回「明日の国語を考える会」の運営	第2回の「明日の国語を考える会」は例年通り、岐阜市内での開催を予定しています。
1月下旬	ぎふこくご賞の審査	
2月中旬～下旬 (19日の線で調整しています。決定し次第お伝えいたします。)	第2回 研究部総会 ① ぎふこくご賞の表彰および、受賞者の方の発表 ② 各研究部研究構想の検討と完成 ③ 岐阜県中国研における「中国研ホームページを活用した情報共有」(「明日に生きる言語活動一覧表」を元にした授業実践及び加筆修正・黒板写真のホームページアップ)における3年次の役割分担 ④ 来年度の研究部員継続のお願いと確認 ⑤ 「ぎふこくご」の配布による、研究報告	飛騨大会における計画を、この時点である程度ご報告いただけるように、準備を進めてまいります。 開催は、岐阜市教育研究所を予定しております。